

あっぱれ、
量子水



開発物語&事例イン
タビュー

もくじ

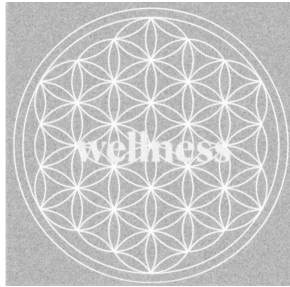
vG7 開発物語 1

ここだけの話(野村社長のつぶやき)

事例インタビュー 28

付録 量子水主要特許(ウエルネス)
スペシャルトーク with ミネ八八

vG7
シリーズ
開発物語



工セ科学といわれて

人生も70歳を越えると、様々な出来事が伏線のようにつながり重なりあって今に続いているのだなとしみじみ思うことがある。そして、あの辛かった体験が役に立った。仕方なく我慢した。あるいはいつまでも形にならずに諦めきれないでいたことが、何故だか何処かで組み合わさって突如として形になりかけていたりもする。無駄な経験はないというが、できれば経験したくなかったあの自動車事故が、やはりすべての発端だったと認めざるを得ない気がしている。

昭和27年長崎市に生まれた、株式会社ウエルネスの野村修之社長(以下、野村さん)は、30歳を迎えた頃、居眠り運転の保冷車に追突され瀕死の事故に遭って人生が大きく変転する。

意識不明で救急搬送されたが、気がつくとは何故か無傷であった。ところが、40日後に突然吐き気がして、首筋から肩のあたりが痛み、からだの自由が効かなくなったのである。リハビリに励んでも、長く手を使っていると、筋肉が硬化して動かせなくなった。それを根気よく揉みほぐして動かすという具合で、とても仕事にはならない。事故の過失はこちらには全くなく、事故後3年間の給料は補償されていたが、どうにか車の運転ができる状態にまで回復したとき、これでは普通の勤めは二度とできないと悟り、野村さんは、自営業の道を選択する。

その当時、大阪の水道水がかなり臭かったことと、周りに農業関係者がいたことから、浄水器や農業資材を扱う会社はどうか、と事業を始めたが、そのうち手持ちの赤や青、緑に着色したガラス砂(二酸化珪素)を使った、熱帯魚の小さなアクアリウムを発売したところ、思いがけずこれがヒットした。

容器に、カラフルなガラス砂を入れ、肉食魚のエサになる小さな熱帯魚を入れたものだが、東急ハンズの担当者が面白いといって置いてくれた。その「私の水族館」シリーズが、部屋のインテリアとして話題になり、年間1億2000万円を売り上げる大ヒット商品にまでなったから驚きだ。そのビジネスを始めるにあたり、ハンズから要請されてつくった会社が、ウエルネスであった。その熱帯魚ブームは7年で終わりを迎えたが、今の量子水の事業を支えてくれたのは、まぎれもなくこのヒットのおかげだった。

今にして振り返ると、ふしぎな縁によって、パズルのピースがひとつひとつはめ合わせられて、人生という風景画が完成する。残りの人生で、ぜひ完成形を見てみたい。それには、健康で長生きする必要がある。ウエルネス、幸せに生きるために欠かせないもののひとつが健康である。それは誰よりも身にしみてわかっていた。

最初のヒット商品「私の水族館」ブームが去って、再び浄水器系の仕事に戻ったことにより量子水を生み出す^{vG1}(ニュージーセブンの)開発が始まった。

当時扱っていた浄水器は、逆浸透膜方式で、後に活性炭やシラスサンドなどを利用するようにはなったものの、まあ、よくある浄水器の範疇を越えることはなく、現行の水道管に直接取り付けるだけで「お家丸ごと量子水」を実現できるタイプのエネルギー変換装置に至るまでには、発想でも技術的な問題をクリアする意味でも紆余曲折があった。そのひとつの転機となったのが、波動測定器との出会いであった。今では、MRIやMRAなどといった磁場と電場を活用した検査装置について、一般人でも医療の現場で、実際に自分が体験するようにもなったが、当時は、共振共鳴現象などといえば途端に、オカルトと怪しまれるだけであった。

波動測定器は、からだの表面の電圧や電位差を極微弱な直流の電気を測ることで可視化しようとするもので、それ以前から知られていた心電図や脳波などの交流の電気を測るものとはシステムが異なっている。

量子力学的に見れば、まずはじめに、陽子と中性子からなる原子核の周りを電子が回り続けることによって原子を形作る。ちょうど地球が太陽の周りを自転しながら公転しているように、それぞれがスピントしながらお互いに影響を及ぼし合っているのだ。その運動エネルギーは、電子が永遠にスピント続けることで、核と電磁的に共振共鳴することで生まれる波動(周波数)をもっていて、原子の種類で、個々別々の周波数になっている。そして、その原子がいくつも組み合わさって分子となり、さらには、もっと大きな塊となることでわたしたちのからだの細胞になり、しまいには、物理的に見えないものから見えるものへと形を変えているのだ。つまり、元々、

すべてのものは、光に似た目には見えないオリジナルの波動(周波数)をもった極小の量子の集まりということにもなるが、その当時は、目に見えないものに端を発する現象の多くは、スプーン曲げと同じく不可思議としか理解されなかった。

もちろん、当の開発者の野村さんでも、当初は五十歩百歩だったかも知れない。野村さんは、九州工業大学金属加工学科卒業、理系出身である。化学式や周期表で表される世界に身を置いていたので、見えないが理論的に表せないものが確かにある、ふしぎな量子(素粒子)の世界に深く関わることになるとは想像もしていなかっただろう。必要は発明の母というが、長引くからだの不调を緩和するためには、気功や霊感的な治療に至るまで、友人知人の勧めによって藁をもすがる思いで方方へ出かけた。そうした経緯があり、金属には、見えないエネルギーを溜めるものと寄せ付けられないものがあり、中でもVGIの素材でもあるステンレスには「氣」のような不可視のエネルギーを溜め込む性質があると思われる場面に遭遇した。はじめは気のせいに思われたが、そのうち、特定の条件を設定したステンレスのナットの上にモノを乗せると再現性のある物理現象が起ころしいことがわかった。

レモンやタバコをおいて置くと、ハッキリと味が変わってしまう。これには、まだ理屈はわからないもののなんらかの規則性、法則性がありそうに思われた。

そこで、当初は水には関係のない、エネルギー変換装置の製品開発に向かった。コースター代わりしてみると酒の味がまるやかに変わった。

昔から、ピラミッドパワーや念力のような話はあったが、この場合は、いつでも再現性があるのがポイントで、だからこそ物理現象と主張したかった。しかし、今でいうサイキックパワーが手品と見分けがつかないように、標準科学では形容のしようがない世界ではあった。

やがて、具体的な製品が生まれることになる。以前からつき合いのあった養豚業者に試しに使ってもらったところ、ふしぎなことが起こり始めた。エネルギー変換装置を豚舎に10個ほど置いて3週間後に様子を見に行くと、社長が「一体どうなっているんだ、あれ以来、豚が死なない」と興奮していった。

ふつうは、その規模の豚舎であれば、2日に一頭は豚が死ぬ。それが、10日に一頭になったというのだ。その後も観察したところ「豚がよく寝るし、よく食べるし、よく太るので、出荷時期が短縮した。子豚が噛み合わないから薬がいらぬ。おまけに妊娠する頭数が増えているようだ」と、まるで魔法使いのように、いいことづくめの現象が結果として起きているらしい。

しかも、野村さんの周りでも、長年、不妊治療を受けていた友達夫婦が高齢出産して「この装置のせいとしか考えられない」という。

そして、様々な結果報告が積み重なるようになっていった。だが、結果は確かでも、自分がびっくりしているくらいだから、他人に信じろというのも無理な話である。当然、効果を実感させる明らかかな結果が出ていても大学は信じてくれない。何が起きているのか解明したいと研究を持ち

かけても誰も相手にしてくれないし、中には『エセ科学』とまでいうひとがいた。論より証拠というが、今でこそ、こうした特性の力を握るのが「電子」であり、電子のはたらきで、分子間の結合状態、つまり、モノの物性が変わることが理解されているが、当時はそんなだったからとてつもなく難儀だった。

だが、理屈は良くわからないが、結果が出るのだ。例えば、新潟のケースでは、孫のところにもむるする不良仲間を気にした祖母が、エネルギー変換装置を置いてみたところ、何故だか彼らが家に寄りつかなくなった。また、山口の中学校でも、保健室に設置してみると、生徒たちがひとりでに癒されるようになって「先生、この部屋すごく気持ちがいい」といい、しまいには荒れていた学校全体が落ち着くまでになったという。

そうして次第に、噂が人伝ひとついでに広がり、今という自己責任的に様々な実証結果がもたらされるようになっていった。ある気功のグループは、ガンをはじめ難病の治療を目的として、東洋医学にエネルギー変換装置を組み合わせたところ、治癒率が一気に8割ほどに上がったという。にわかには信じられないが、その結果は、微笑ましいものから、薬事に触れそうなものまであった。そして、その傾向は、その後、エネルギー変換装置を水に転用することになって、 ν GI(ニュージーゼブ)が生まれ、次第に水の改質装置が製品の主流になった現在にも引き続がれている。

電子(量子)のふるまいによってもたらされるらしい、見えないエネルギーの共振共鳴現象は、水だけだけでなく、空気にも空間にも草木にもヒト以外の生きものにも影響を及ぼしているのだ。もっと

も、空気には薄っすらと水が含まれているし、宇宙においても100%の真空は存在しないともいわれているから、当然かも知れない。

30億でも売らない

YGIは、九州の畜産業界でのテスト設置からスタートした。量子水の評判を聞いて、知り合いの業者が豚と牛を飼っている現場に装置を設置したときのこと。

豚舎の臭いが3日で消えたというのだ。そこまでは良かったが、その1週間後にその社長が血相を変えて怒鳴り込んだ。

「あの水のせいだ。そうとしか考えられん、四百万がパーになった、弁償しろ」と騒動になったのである。

社長がカンカンになって怒ったのは、量子水を飲ませていたら、出荷予定のブランド和牛から霜降りのサシが消えてしまい、売り物にならなくなったというのだ。高級和牛は、出荷が決まってから、エサを変えて、全身にサシが入るように飼育する。つまり、急ピッチで運動不足なメタボ牛に変身させるというわけだ。

だから、そのサシが落ちてしまったのでは、何をしているのかわからない。

この件は、テスト設置前の合意に基づいて、息子さんのとりなしで幸いに一件落着となったが、これを目の当たりにした野村さんは「ひよつとすると、ダイエット希望の女性が量子水を飲めば痩せるのではないか？」と気づいた。瓢箪からコマとはこのことで、周りの女性たちに飲ませてみると確かに痩せ出した。

そのダイエット効果が口コミとなり、熊本では、自販機式で売っていた量子水の売り上げが伸びていった。今では、量子水の飲用で、中性脂肪や血糖値、血圧が改善される例は枚挙にいとまがない。いわば、既定路線になっているかのようだが、最初はふしぎのひと言に尽きた。

やがて、大手系列のホテルにも導入事例がはじめた。そのホテルのグループ関係者がある食品加工場を見学して、工場特有の臭いがしないこと、量子水を使うことで製品の旨み成分・アミノ酸の量が2〜3倍に増えた事実を目の当たりにして導入を決めた。「思い切って投資をしたが、その価値が良くわかった」とホテルの社長がわざわざ電話をくれた。厨房の臭いの元となる油污れが消えて、グリストラップも澄んでいるのを見て効果を実感したという。

そして、2008年秋には、誰でも知っているような大手商社が「日本国内の販売権を30億円で買った」といつてきた。ちょうど、日本のほか、中国・韓国、アメリカ、オーストラリアと、特許の取得が続いていた頃のことだ。しかし、野村さんは、その申し出をその場で断った。

「お金が目的ではない。VGIは、天からの授かりものにちがいない」

それは、今でも、野村さんの信念である。どうしてそうなるのか明らかにできない。理屈を完全には知ることができなくても、量子水の効果は素直に享受すればいい。宇宙を伝播して届く太陽光の作用を深く知らなくてもお天道様の恩恵を受けられるのと同じことだ。だからこそ、自分さえ良ければいいわけではない。

実は、今でも、その手の申し出は、年に数件は寄せられている。例えば、中国の富豪が国内の総販売権を欲しがったりするのだ。それを断る理由のひとつは、製品の発売当初から現場に赴き、テスト設置で効果を確認しながらやってきて、誰にでも簡単に、並べて説明するだけで、つまり、商社のようにモノがどんどん売れていくわけではないことを熟知しているからだ。賢明なひとなら、いきなりそんな大きなことをいわないで、一件一件、実績を積んでいくはずだと思う。

その野村さんの想いの表れを垣間見せるのが、商品のネーミングだろう。

「ニューSUN君」とは、蛇口に接続して使ういちばん小型タイプの量子水キットの商品名だが、おしやれでもない、製品特性を表してもいない、サン君って何と思わせるネーミングだが、野村さんとき合っていると、それが、自分の子どもをたかし君、ゆうじ君と呼ぶのに似て、製品に対する愛情、愛着からくるものだろうと納得する。

時には周りからの要請で、苦勞しながら製品開発をして、水道管元付機種のほかにもシャワーヘッド、浄水器、携帯用の製品とラインナップが増えていった。中でも現在、v^Gシリーズの中で、飲用量子水製造の最高機種となるヘキサゴンとリバー스는、発見時にはかなり進行したガンに蝕まれた娘を助けるために、ニューSUN君を手に持ち、上から水を注いでそれを何度もくり返して、日に何度となく、さらにエネルギーの高い量子水を飲ませたいと努力し続けていた母親がいった「社長、勝手に、自動で*コアを何度も通した水をつくる装置をつくってよ」のひとことがきっかけとなった。最初に大きなサイズのリバー스는、それからサイズをスケールダウンして、ようやく卓上型のヘキサゴンが登場するまでに7年を要した。ステンレスや強化ガラスの容器の中で、ステンレスの六角コアをゆっくり回転させると金属の自由電子が縦横無尽に動き回って水が量子的にエネルギーを変化させる。だから、モーターから何もかも全てをステンレス製の部品にしなければダメだ。

はじめはそれがわからずに、パッキンのゴムが溶けたり、金臭い水になって失敗をくり返した。おかげで、今ではこの水を飲用したひとが、様々な症状改善や中には奇跡的な体験を含む病氣回復の事例を報告してくれる日々が続いている。*コア＝フィールド変換器の愛称。

かつて、交通事故の後遺症で原因不明の不定愁訴に悩まされ続けた野村さんにとって、それはこの上もないうれしい状況で、まさに開発者冥利につきるひとつの到達点であるともいえる。あの

とき、30億に目が眩んでいたら、おそらく、こんなことにはならなかっただろう。ただ、それは、まだ、ゴールではない気がする。

量子水に興味を持ち、信じてV^Gシリーズ製品を愛用してくれたひとたちとの出会いを通じて新しい製品開発につながり、それがまた、ひとに伝わり、量子水の輪が広がってゆく。まるで、池に投げ入れた小さな小石の波紋が伝播してゆくように、きっと、これからもそれは続いて行くと信じている。

ここで話は少し脱線するが、ご愛用者の方から寄せられたエピソードをいくつか紹介しよう。まずは、熱帯魚の水換えがあまりいらぬ。切った野菜のヘタを量子水で再生させるとどうなるか。そして、水道水と比較して数ヶ月経っても木の枝が枯れない事例。こうして時折、ご愛用者から写真入りのコメントが寄せられることがある。自宅で実験してみたらこうなった。あくまで自発的な実験結果だ。

ある60代の男性(公務員OB)が友人に勧められてニューSUN君を蛇口に着けて注水した。それまで、数週間に一度オーバーホールしていた水槽の水換えをしないで様子を見たところ「減った分だけ量子水を足すだけで、きれいな状態をキープできている。しかも、月に数匹は死んでいた小さな熱帯魚が死なくなかった。底の貝類も大きくなったり、藻も生えないよ」という。

ある主婦の方は、台所で、料理の度に根菜類や葉物野菜のヘタを量子水に浸けて水耕再生するという。「にんじんのヘタや玉ねぎの根っこを量子水に浸けると、数日のうちに新しい葉っぱが伸びてきて癒されます。たまに、摘みとって味噌汁の具にしたり、鉢に植え替えて小さなにんじんが収穫できたこともあります。生きているんだなあって実感します」というのだ。そして、榊がグラスに挿して水道水との比較を試みた70代の男性は「水道水につけた方は枯れてしまい、量子水に挿した方はまだピンとして生きています」。また、別の歯科医の先生は「榊が8ヶ月経っても枯れません」という。量子水を使いはじめると、今までになかった発見があるようだ。ひよっとすると、わたしたちのからだの細胞の中でも似たような現象が毎日発生しているとしたらどうだろう。

これらの現象は、わざわざ、波動がどうこうと誤解されかねない説明を加えなくとも、誰でも子どもでも自宅に居ながらにして、いつでも再現性を確認できる物理現象なのだから面白い。例えば、犬や猫は、何の疑いもなく器に入れられた量子水を飲む。飼い主によれば「以前は、あまり水を飲まなかったのにふしぎね」という具合だ。試しに量子水とは別に水道水を置いてみたところ、ネコは見向きもしなかった。つまり、それまでの経験や記憶から、脳に刷り込まれた、たかが水という思考を越えられないのは、わたしたちヒトに限られたことなのかも知れない。あるいは、農業や畜産の現場でも、量子水栽培によって、糖度が上がったたり、連作障害がなくなったり、

大きく、しかも早く育つたり、子豚が多く産まれたりして肉質も優良になり、高付加価値のプレミアが生産者を喜ばせているのも事実だ。

こうして、効果を如実に発揮して結果をもたらしてくれるなら、エセ科学といわれようがどうでもいい。一度に大量の水を摂取して水中毒にでもならない限り、H₂O 水で副作用が現れる心配もない。しかし、メーカーとしてはそれはいけない。野村さんは、研究者や大学と共同で今でも量子水の作用機序を解明する努力を続けている。中でも、ミトコンドリア活性についての試験結果は、ワカメから植物、菌類、動物、ヒトにいたるまで真核生物の活動エネルギー産生において、量子水の飲用が飛躍的な効果をもたらすことを示唆している。何故なら、活動エネルギーである ATP の産生の最終工程では、電子の受け渡ししか起きていないのだから。

飲めば元気になる水、神経をはじめ電気信号によって制御されるわたしたちの生体活動を、よりスムーズに維持する潤滑剤となり得る量子水、そのはたらきを現代までの科学ではまだ解き明かせないだけだと考えている。また、工業系の考察では、もともと赤錆の付着した水道部品を量子水が通過し続けると、3ヶ月ほどで黒サビに変わる現象も確認できた。これは、いわゆる還元作用を示していて、本来なら常温では有り難いとされる物理変化なのだ。還元作用が起きているとは認識できても、何故そうなるのかは、学者の先生でも予想の域を出ない。だから、興味を持つひとだけ、わかるひとだけ、論より証拠というひとだけが喜んで使ってくれ、周りに伝えてくれ

ればいい。それは、強がりや開き直りではなく、見えない解明できない科学領域へのリスペクトでもある。

いくら理論がすぐれていても、フィールドに出したら結果が出ない、試験管の中の限定的な域でしか効果を発揮しないなんて、さほどの意味も持たないではないか。世の中にはそんなものがあふれ返っている。

もとは、エネルギー変換装置として開発された ν GIシリーズだが、各種特許を取得した2008年頃から、老舗の料理店やホテル、スポーツジム、病院、大学の附属施設、大型商業施設など比較的規模が大きい施設にも導入される事例が出はじめた。

オールステンレス製で径の大きな元付け機種はそれなりに高価なので、最初は、一定期間のテスト設置を経て導入になるパターンにしていた。配管元付け機種は設置工事を伴うので、慎重に対応するとともに改善した結果が出たことを確認できるのが大前提だろうと考えた。おかげで、ほとんどの場合は効果を確認してそのまま導入へと進んだ。いくつかの例では、現場の評価は上々にもかかわらず、上司の懐疑を晴らすこと叶わず、いったん取り外した後で、状態が元の木阿弥になってしまい、結局、 ν GIの実力が認められて正式採用になるといふなんとも無駄なステップを踏むパターンもあった。

沖繩のあるスポーツジムでは、プールや温浴施設を併設しており、 vG の抗菌性能に目を見張った。「検査担当者が、一日に千五百人も利用する浴場で大腸菌がゼロなんて考えられない。いったいどういふことなのか」といつていると連絡を受けた。

水道水を改質しただけの量子水が、塩素など投入していないのに、どうして大腸菌やレジオネラ菌、ノロウイルス、COVID-19などを抑制するのか、ひと口に説明はできないが、膜やスパイクタンパク質を溶解しやすい状態の水に変わっていることは確かだ。その鍵をにぎるのはやはり電子で、水そのものの界面活性の向上や電子のアタック(緩衝)をもたらすと考えている。だから、水道管元付けの機種を取り付けると、そこから先の水はすべてが量子水に生まれ変わり、水回りの配管や浄化槽などの設備延命と施設利用者やスタッフの健康に資することにつながる。

先ほど話題にしたヘキサゴン、リバーズは、モーターでコアを回転させ、通水回数が増えれば増えるだけ、電子のスピンによって生まれるだろうエネルギーが増幅して、量子水の活性が高まる仕組みになっている。これを元付け機種に応用したのが、多連式の vG （ニュージーワンエル）シリーズだ。食品加工場などでは、排水に含まれる油脂の分解を高めるため、あるいは工場内の臭いを解消する目的で、川上から流す水をすべて量子水に改質するのがねらいのひとつだ。中には、代表者が量子水にとっても興味を持ってくれ、**複数の vG を追加接続してくれた水産加工場**もある。

る。今ではなんと12連結式の装置になっていて、その結果、仕上がった製品の出来栄もすこぶる向上して、売り上げが増えたとも語ってくれた。

こうして、興味を感じて、目の前の結果を信じて使ってくれば状況は益々改善される可能性がある。今では、幸いなことに、多方面で導入実績が増えて、テスト設置をしなくとも、製品を即納できるようにもなった。近年は、大手外食チェーンや新築の高級マンション、介護施設、プール・温泉施設、複合商業施設などでも導入が増えはじめている。そこで、これまで必要に迫られて、数々のラインナップをそろえてきた野村さんのいちばん思い入れの深い製品を尋ねたところ、まずは「4A6連式」それから「テラヘルツ浄水器」、いずれもコアを6連式にしたら飛躍的に性能が実感しやすくなったからと回答があった。

そして「以前に比べると、世の中に干渉し合う電磁波が増え続けているからなのか、コアを多連にして、ある程度のエネルギーにしないと太刀打ちできなくなってしまっているのかも知れない実感がある」とも説明してくれた。

たとえ電磁波に敏感でないふうのひとでも、周波数は目に見えないからこそ、それなりに身を守る意識が必要な時代になってしまったのかも知れない。

これからは、波動医学の時代

これまで述べてきたように、量子水の大ファンもいれば、懐疑的なひともいて、ひとそれぞれという他はない。量子物理学の分野では、その意識すら特定の波動(周波数)を持ったエネルギーだと明らかになってきている。Sの字を横にしたような波形は、海の波に代表されるが、身近なところでは、音も色も見えないが固有の周波数を持った波のエネルギー。ヒトの耳では20Hz(ヘルツ)から2万Hzの音が聴こえるというが、犬なら65Hzから5万Hzで、ヒトの数倍以上聞こえる領域が広い。また、色では、ヒトは太陽光に由来する、いわゆる可視光線領域の赤から紫の色を見分けることができるが、その外側には赤外線、紫外線、X線といった目では感知されない周波数帯もある。波の振幅が短く激しく振動しているほどエネルギーが大きい。また、虹の色は日本では7色がスタンダードだが、東南アジアでは、4色、3色と受けとめる国もあるらしい。つまり、それは、実際に誰が見ても何色と決まっているわけではなくて、見る人々の習慣性や日差しや気候の違いとも相関があって、どれが正しいというのではない感覚のちがいでいうわけだ。つまり、それぞれの感覚によって、同じ虹を見ても、わたしたちは異なった自分特有の世界に生きていることにもなる。だから、量子水についても処理する前の水の違いや連結したコアの数や判断するひとの感覚によっても性質がちがってくる。ふだんはあまり意識していなくても、わたしたちをとり巻く環境には、様々な周波数を持ったエネルギーが影響を与え合っているからだ。

近年、話題に上ることの多い家電、各種通信機器から発せられる電磁波もそうで、それらの周波数は、同じものは共振して力を強め合い、逆に反対のものは緩衝して弱め合う。

例えば、古典的な理科の実験で、いくつかの異なったリズムのメトロノームを同じ空間に置くと、ふしぎなことに次第に同期して、しまいにはすべてが同じリズムを刻むようになる映像を見たことがあるだろう。また、その反対に、海の波と汽水域の川の流れがぶつかり合って、白い境界の線に見られる打ち消し合う波が現れるのが緩衝の一例といえる。

ましてや、わたしたちは、自分がエネルギーを放射しているなんて思いもよらないが、人体も含めてすべての物質はテラヘルツ波をはじめとして、固有のエネルギーを放射している。さしづめステンレス製のV_Gの場合は、金属の隣り合った原子同士が、自由電子を共有しているから、縦横無尽のスピンエネルギーが巡り巡り周りに影響を及ぼしていると考えられる。

だから、永遠に原子核を回り続ける電子のスピンと原子核の共振共鳴の位置エネルギーが、磁気と電場のエネルギーを生み出すことになる。電気(電子の流れ)と右巻き磁界はコインの裏表のような切っても切れない表裏一体の関係にあることは、中学の理科で教わるレベルの事実で、実は、エセ科学でも何でもないので、興味のないひとにとっては、そんな理屈は意識の何処にもないから、何も存在しないのと同じことなのだ。

2013年の終わり頃、ハワイの代理店関係者(ドクター)の尽力で、野村さんは急ぎ渡米し、世界的に著名な、米国で世紀に名を残す10名の科学者のひとりといわれる天才物理学者、スタンフォード大学名誉教授のウィリアム・A・テイラー博士に面会することになった。この教授は、すでに世界的な物理学の教授であったが、後年は、見えない意識のはたらき、量子力学との兼ね合いなど、今、まさに語っている近未来的なテーマをいちはやく研究してきたまぎれもない第一人者の博士なのだ。たった15分の面会時間だったが、とても貴重なエポックな場面として、一生記憶に残ることになった。

教授は、右手にコアを乗せて、実際にこやかに微笑んで、「おー、ここから電子が出ているね」とおっしゃった。長年、その機構を解析できずに来たが、こうして、大天才からお墨付きをもらったのだ。このエピソードは、ホームページをはじめ、これまで折に触れて語ってもきたが、その件で特に質問を受けたこともひどく興味を持ったひとに出会ったこともない。

野村さんは、世の中とは未だそんなもの、常識なんてそのくらいだと逆に納得した。

例えば、手のひらにコアをにぎって、脳波を測定すると、いわゆるアルファー波が顕著に現れるデータがある。もちろん、そのひとのコンディションやストレスなどにも依るだろうが、起きたこととしては、再現性のある事象だ。いちばんはじめのところ、MRIやMRAと例を挙げて説明したように、医療の現場では、脳波や心電図などはちがう仕組みで、生体の極微弱な直流の電気を

キヤッチして診断に活かすようになっていた。

しかも、それは、非接触で電場や磁場というフィールド(空間領域)を測定していることにもなるから、量子水を生み出すエネルギーフィールド変換装置とカテゴリー的には類似のシステムということができる。

そして、単なる検査だけではなく、近未来では、そういった見えない波動(周波数)が影響を及ぼしあう磁場や電場のフィールドを通して、そこに共振共鳴させる技術を使って治療するのがスタンダードになる可能性が非常に高い。

野村さんが、苦勞して追証し続けてきたのは実はコレだったのかも知れないのだ。

20年早かったのかも知れない。少し先を行くヒトは往々にして周囲に理解されずに苦勞する。野村さんにとっては「私の水族館」がもたらしてくれた利益は、想定外の恵みに過ぎない想いがあつたのだろう。だから、もっと富を増やそうとか、業界を制覇しようとか、そういう俗っぽいことにはあまり興味がなかった。

戦後、7年ほどして長崎市内で生まれた野村さん自身も被爆二世の立場ではあるし、生きること生かされることに真摯に向き合ってきた結果だともいえるだろう。人生は、時に錦の織物やタペストリーにも喩えられる。生まれて死ぬまで100年ほどの間に、知識を得て、何らか世の中にも貢献したいと努力するが、無意識の目には見えない綾のような不思議な巡り合わせに満ちている。

それに素直に従うことが、自分をとり巻く周囲や、ひいては宇宙全体の量子的なエネルギーとも同調(共振共鳴)することになる。

そう、大袈裟ではなく、意識の転換が必要な時代を迎えているのだ。

わたしたちのからだを細胞ひとつひとつが連なって相互扶助的に統一体をなす生きものと考えたときには、3ヶ月もすれば、個々の細胞は入れ替わって、すっかり別のものになったハズなのに、相変わらず、何も変化していないかのように存在しているのは何故か。もちろん、年齢を重ねると経年劣化のようなことは起きるし、全体にも反映されるが、しかし、わたしという自己を保っている。これを動的平衡といったりするが、全体を存在の場、つまりフィールドととらえると、まず、フィールドがあつて、そこに存在している個別の部品(細胞)なりが、まわりと歩調を合わせながら自動的に入れ替わっていることになる。この摂理ともいうシステムに反したものの例がガン細胞だろう。だから、量子水を飲むことで、抗がん剤の副作用がなかったとかガンが寛解したといった薬事法に触れそうな体験が報告されもする。

それは、1対1の標的にはたらくというよりは、全体としてフィールド(領域)に好ましい、スムーズな環境整備に寄与したと考える方がしっくりくる。だから、様々な改善例が報告されるし、そもそもが水なのだから、マイナスに作用することは考えにくい。似たような事例に、乳酸菌は増え、そこにいたはずの大腸菌は淘汰される現象もある。同じ菌類なのにどうしてかと首を傾げ

るが、ひとことで菌といっても微生物は、ウイルス、細菌、病原菌とカテゴリーがちがうから、適正な環境も異なり、生命場としての環境がどの菌に適しているかによって、菌層は異なるバランスになるのだろう。わざわざ、都合の悪い菌を増やそうとして環境を整えない限り、 ν_{G1} の設置で改悪(腐敗や有用菌の死滅)に向かった事例は聞かない。これなども納得のいく説明は難しい。もしかすると、ステンレス製の ν_{G1} から発せられる金属の自由電子エネルギーが、音叉のような役割を果たしているのかも知れない。フィールド内で様々な周波数を持つものがお互いに影響を与え合うが、 ν_{G1} から発せられる周波数は一定であるから、共振共鳴するものは増え栄え、反するものは淘汰される。フィールドは、まるで意識を持っているように振舞う様に見えるがあくまで、物理的な現象に過ぎない。怪しくもなんともない。

例えば、世間によくある水の説明と比較しても、量子水そのものは、酸化還元電位もプラス側にあるし、溶存水素量を測定しても、48時間後を頂点として、じわじわと発生してはいるが、水素水と名付けるほどの存在量でもない。なのに、効果を発揮するのだから、水素や酸素 \parallel 水の構成原子以下の電子をはじめとする量子(素粒子)の変化が、フィールドのエネルギー変換のはたらきを考えると考える方が逆にイメージしやすいのではないのか。何かを意図的に反応させようとするわけでもないし、外から無理やり気体を封入して水に機能性を付加しようとするのでもない。勝手にそうなるのだ。しかも、 ν_{G1} には、濾過機能は付いていないので、一度設置すれば、ほとんど

の場合には、長期の使用に対してメンテナンスもカートリッジ交換も必要としない。これは、セールスポイントとしてはかなり大きい。

2010年、vG¹を導入してくれた東北の大規模食品加工工場では、11年の大震災の津波で壊滅的な被害を被ったが、その後、みごとに復活して今でもvG¹を愛用いただいていると報告を受けている。その工場では、濾過、紫外線で滅菌した海水を量子水に変換して、加工場全体に行き渡らせており、取材当時、選別作業場で劣化の早いサンマを鼻に近づけても臭わない。スタッフは、魚臭さがなく加工場で働いている気がしないと話していた。たぶん今でも変わっていないだろう。vG¹導入には、それなりに高額のイニシャルコストや設置工事が伴う。長期間使用できるのは必須の条件といえる。しかも、事業に水を一滴も必要としないところなどほとんどないのだから、それは特殊な事例でも何でもなくて、汎用性と永続性を伴っている。

「孫子の代まで使える」というと笑うが、三代先まで商売が永続するのはかなり難しいのもまた現実ではある。みんなそうであって欲しい。

そうして、元付タイプのvG¹が各種の業界で浸透しはじめた頃、野村さんは、ある大手の空気清浄機の会社と呼ばれた。「確かに効果が出る。どうしてそうなるのか示なければ販売できない。作用機序を説明しろ」という。正直に、化学式では全体を表せないと答えると叱られた。そうして、一度ではなく三度まで呼びつけられたとき、二度とこないと宣言して決裂した。マスを相手にする会社と、ひとつひとつの事象に懸念にあたるうとする小さな会社では考え方も使命もちが

うものだ。もちろん、効果の裏付けとなる理屈は探りたいが、個別の試験結果を点と点でつないだところで、しょせんは全体にはならない。それは、そっくり、今のわたしたちが知っている科学の範疇には、すべてを凌駕する答えがない現実を指している。

いつか、それを説明できれば光栄だが、おそらくは不可能に近いだろう。

わたしたちの科学では、水の特異点が何故摂氏4℃なのかを誰も答えられないし、個体の氷が液体の水に浮かぶのは、どういうわけかも知らない。

しかし、理屈は知らなくてもその恩恵を享受することはできる。量子水はそのひとつにつき。残念ながら、すべてを解明できるわけがないのだ。運良く何かを突きとめても、探れば探るほど、また新たな課題やふしぎが現れるのできりがない。

答えは自然の中にある

赤ん坊の瑞々しい肌みずみずと高齢者のシワシワの肌とでは明らかに水分量がちがうのは一目瞭然だろ
う。ひとことで水といっても、細胞の中の状態は、時と場合により異なっている。例えば、タンパク質合成の現場では、周囲の環境が激変するのを防ぐ意味からか、タンパク質をカバーする形

で三重の状態の異なる水がとり巻いているらしい。それは、内に行くほど動かない、ガツチリとガードしている状態なのだという。細胞内液の70%が水なのだから、あらゆる合成の場、触媒として機能していると考えられるが、この場合、水がいちいち、こうしようあしなければ、と考えているはずはないので、隣り合うものがAなら、あるいは、DNAのように、このユニットの組み合わせならこう、と自然の摂理のようにフォーメーションを自在に全自動的に組み替えているのだと推理できる。先に説明した動的平衡のように、フィールド領域にかくあるべしと電場や磁場の情報をキャッチして、自律的に機能していると考えるのが妥当と思われる。

自動的かというと怪訝に思うかも知れないが、実際、わたしたちは呼吸の制御、まばたき、視覚聴覚の神経伝達に至るまで、ほんとは、ほとんど自分の脳で判断指示しているわけではない。からだの部位としては、もっとも水を蓄えている大腿部には赤と白の筋肉があるが、この筋肉を動かすタンパク質、アクシン、ミオシンのオンオフを制御する場にもこの層状の水が関与している、それはまるでシャーベットののように、水(個体)、水(液体)、水蒸気(気体)以外の状態が存在することを示しているという。どんな条件の時にどんな状態になるのかは別としても、水には多種多様な「場」としての存在パターンがあるのだ。そのひとつひとつについては、何故そうなのかを今の段階では説明のしようがない。

何度もいうが、今のわたしたちの知り得る科学では、水のふしぎを納得のいく形で説明できない。物理学者の卵が研究テーマを選ぶ際に「水には手を出すな」といわれるらしいのはそのためだろう。答えを求めても際限がない。それは、わたしたちの生命が、いっとうして、たぶん海から生まれたのを仮説として説明する以外にないこと。もし、水の特異点が摂氏4℃でなければ、冷たい海の表面は固い氷で覆われて、生きものの繁茂する条件には決してならなかったと推察されること。そして、何故そうなのかを説明し尽くせないことは自明である。だから、エセ科学と揶揄されても無理なものは仕方がない。

今から100年前のオーストリアにヴィクトル・シャウベルガーがいた。彼は類稀たぐいまれな観察眼を生かして、河川の流れを研究し、水の浄化作用がどういう仕組みで起こるのかを解き明かし、逆三角形に求心的に引つ張り込む右巻きの螺旋エネルギーに着目した。これが、 γ の筒の中で起きている現象のいっつあんを示していると考えられている。だから、量子水の説明には、自然界のはたらきの一部を再現したと書いている。あくまでもほんの一部に過ぎないが、六角の \ast 八二カムコアを通過する水が、自然界の岩場を走る溪流の流れに似た条件と重なり合い、瞬時に劇的に変化するのだ。この螺旋は、DNAや潮の渦巻き、貝殻、ひまわりの種の模様など自然界の至るところにフラクタル(相似形)に現れ生命のシグナルとして点在する。これもまた、何故そうなのかを解明

はできないが、太古の昔から、生命現象の場に幾度となくくり返し現れて、自然の摂理といった根源的なものを表している符号のようなものと考えられる。

水から生まれ、水に依存して生命を維持しているわたしたちは、この自然現象に沿うことなくして、^{いのち}生命を全うすることはできない。

努力しても部分的にしか説明できない。その一部をかるうじて再現するだけだとしても、生活の中の水を生きている水に戻したい。

いのち輝く水をテーマとして、量子水をさらに追求し続ける野村さん。

そして、ウエルネスの想いはこれからも受け継がれてゆくだろう。

*ハニカムコア、ここでは、六角形の多重構造体。

参考書籍

「日本発、世界No.1ベンチャー、この国を元気にする起業家精神」

早川和宏著 三和書籍



ここだけの話 (野村社長のつぶやき)

このエピソードを話すにはひとと場所を選ぶと思う。

2014年5月にスピリチュアル系雑誌「Anemone」に掲載

された時にも、もちろん賛否両論があった。

vGを開発して以来、見えないエネルギーを可視化する、科学的に証明する、怪しげを通り越して真実を知らしめることをめざして努力はしてきたが、量子物理学が発展した現在でも、この話を理解納得あるいは、すんなり許容できるひとは少ないだろう。

この10年、いくつもの特許や大学との共同研究やエンドユーザー様の自発的なテスト結果など、科学的指標を蓄積してきたものの、未だに「エビデンスは？」と問われる。再現性のある事実を見せても、自分が欲しいどんピシャのデータを与えない限りエビデンスとは思わない。科学の世界でも、きのうまでの常識が覆えることはいくらでもあるのに、馴染みのないものは怪しい、信じない、そんなことはまちがいだといはって譲らない。量子のふるまいが観察者によって変わるのに似ている。

2003年の正月にヒーラーのAさんと知り合い、その会話中にふしぎな体験をした。彼女は高次元存在と会話ができるというので、ふと思いついたことを質問したのだ。

「宇宙は、ビッグバンでできたといわれてますよね？」

すると「そうよ」と彼女が答えた。

「誰がそうしたんですか？」

「ワシがした」

「その前はどうかだったんですか？」

「カオス」と会話が続き、その声はとても威厳のある男性の声で、直後に目の前のAさんに確認すると、そんなこと誰がいつたの？とまるで身に覚えがない様子だった。

実は、それ以前にも重要な決断にはYes or NOを天に投げかけて答えを受けとることはあったが、潜在意識か内在神によるものとイメージしていた。宇宙の創造神そのものの声を聞いたのは、もちろんはじめの強烈な体験だった。

その後、まるで何かに導かれるようにして物事が加速し、5ヶ月後にはvGを世に送り出していた。この装置は天からの授かりもの、金儲けに走らないのはこの体験による。宇宙のすべては「根源の意識から派生した」疑うよりそう信じて幸せになった方が何倍もいいだろう？

水は水素と酸素の化合物。宇宙で一番多い元素は、水のもとと書く水素で93%を占めている。水のふしぎが解明されるごとに宇宙の真理が明かされるのではないか？

あの声は、正真正銘の創造神だと今でもそう信じている。



@times
インタビュー

ジャーナリスト
早川和宏

wellness-at-times.com

北九州市小倉北区にある「クサバ歯科医院」を訪ねていく！

そこは「漢方薬・鍼灸・オーリング研究所」だった

「小倉・倫理法人会」幹事

北九州市小倉北区にある「クサバ歯科医院」の草場隆夫院長の名刺は、かなりユニークである。

カラー版で縦型の名刺は、顔写真入りで、一般社団法人「倫理研究所」所属の「福岡県小倉・倫理法人会」幹事の肩書である。小さな活字で「会社・クサバ歯科医院」と、住所が書いてある。引っ繰り返すと、裏側は横型の「漢方薬鍼灸オーリング研究所」歯科医師とあり、QRコードが付いている。

下には青い活字で「歯周病、入れ歯、審美歯科、インプラント、噛み合わせ治療、顎関節症（痛い、音がする、口が開かない）、漢方、鍼治療、オーリング」とあり「定期検診であなたのお口の健康を守ります」と、赤字にアンダーラインが引いてある。

情報満載の名刺というべきだが、世間的な歯科医のイメージとは異なる。

しかも、倫理研究所とは1945年9月、教育者・丸山敏雄氏が設立した民間団体で、事業は多岐にわたるが、家庭、地域、企業活動を通じて、日本を創造的に再生することを目指している。傘下の倫理法人会は企業を対象にしたもので、一般向けには家庭倫理の会などがあるという。

いずれにしても、倫理研究所、法人会等の「倫理」とは人として踏み行わべき道。道德の

ことである。やや保守・右翼的な思想団体のように思えるが、科学分野における歯科医のイメージとは、明らかに隔たりがある。

もつとも、素直に受け止めれば、人生を真面目に考えて、**歯科のみならず医療全般に興味を持つ勉強熱心な医師ということになる**。事実、土曜日の朝は倫理法人会、日曜日の朝は家庭倫理の会に出かける。

最低の成績から歯学部を目指す

草場医師は、今年67歳になった。

人生を振り返って、運が良くて幸せな人生だと、2024年3月に出演した地元のFMラジオでも語っている。定年後、多くの仲間が仕事をリタイアするのに対して、草場医師はなお歯科医を続けるなど、やるべき仕事があつて、しかも社会から必要とされていると実感できるからだ。

もつとも、それはいまにして思うことで、人生を振り返れば、必ずしも言葉通りというわけではない。何しろ、生まれたときから、予定日よりおよそ3カ月早い未熟児（1800g）として、2月に生まれた。

小さいころから電車やバスに乗って、大学の付属小学校・中学校に通った。学力は「最低」だったという彼が、勉強の面白さに目覚めたのが、中学2年のころ。近くの私塾で、真面目に勉強を始めたが、時すでに遅し。行くつもりだった小倉の進学校ではなく、兄が通っていた門司の三流校（？）に行かされた。

結局、高校にはなじめず、グレて一つ年下の彼女と遊んでいたところ、彼女の学年の連

中に呼び出されて、ボコボコにされた。いまなら警察沙汰だが、その彼女とも別れ、大学受験を前に、初めて「将来、何になるうか」と考えた。

「何か人の役に立つような、どうせ一回しかない人生だから、歯医者になる道もあるな」と思ったとき、子どもどものころ、家の前に歯医者さんがあって、いつも遊びに行っていた記憶が蘇ってきたという。

目指す道は決まったとしても、当然ながら「無理だろう」と言われた。

事実、センター試験（共通一次）を受けたところ、採点するまでもなく不合格。そのため進学校に併設されている予備校に、3年計画で通うことにした。

5浪して歯科大に合格する

予定では、予備校での1年目は主要3科目。2年目は物理と化学を重点に、3年通って3浪で歯科大に合格するという計画を立てた。

だが、1年目の父兄会で、母親は担当の年齢の先生から「隆夫君が九州歯科大に入ったら、私はこの校舎を逆立ちして回ります」と言われた。それぐらい無理な話だった。

だが、3年計画で、順調に合格ラインにはなってきた。4年目には鹿児島大学に新設された歯学部を目指して、試験は良くできたというが、結局5年目に突入。センター試験の会場が、目指す九州歯科大学だった。

寒い中、体育館での最初の科目は英語で、気がついたら眠りに落ちていた。あわてて、適当にマークシートを埋めて、後は開き直って受けた。自己採点などできないままだったが、何とか合格。二次試験も九州歯科大学で受験を終えて、見事合格した。

5浪の体験を経た彼は「人間って、最初の一回目で躓つまずいたりしますよね。でも、そこで諦めたら、もう終わりなんです。人生諦めずにやれば、何とかなるという教訓を、そのとぎに得た」と、振り返る。

歯科大に合格したからといって、すぐに歯科医になれないのはともかく、最初の2年間
は高校でも習った教養過程をお復習する。年に一回の試験で合格しないと留年になる。
当時、120人中40人ほどが留年したという。

彼は10科目が赤点で「草場はもう絶対ダメ」と言われていたというが、3日間、徹夜
で勉強して、すべり込みで合格した。

しかも、試験前夜、近所に住む同級生から「重要な試験問題がわかった」との知らせに
クルマで向かった帰り道、雨でスリップして、気がついたら電柱に衝突していた。血がダ
ラダラ流れていた唇を救急病院で縫って、そのまま徹夜で試験に臨んで、留年を免れた。

そんな運にも恵まれて、大学は最短の6年で卒業。卒業後は、大学のツテを頼らず、上
京して開業に必要な臨床実習などの知識や技術を習得しようと、東京医科歯科大近くの歯
科診療所に3年ほど勤務。その後、別のところで1年ほど働いていたところ、母親が自動
車事故を起こしたため、帰郷する。

「お口（歯科）」は健康の入り口

小倉にもどって、地元の歯科医院に勤めた後、満足な治療ができないことから、北九州
市の中心地で開業した。7年ほど経って、将来を見据え、駐車場付きのクリニックにする
ため、現在地に「クサバ歯科医院」を開業した。

順調に患者数も増えて、すっかり地元に着した2003年ごろ、先輩医師から、博多で「東洋医学のセミナー」があると聞いて、東洋医学の道に入った。

毎月1回、東洋医学・鍼灸の講義を受けて、その先生から漢方薬の先生を紹介されて、やはり月に1回、漢方薬を習いにいった。12年間、漢方薬を習ったというから、名刺が「歯科医」ではなく「漢方薬鍼灸オーリング研究所」であるのも、少しは納得がいく。

オーリングテストも、東洋医学の先生から教えられて、歯科治療にも導入。その人に合う治療を行うために、役立てている。

オーリングテスト自体は、何とも不思議なものだが、いまでは医学会もあり、多くの病院などで利用されている。

人の体にとって、歯科医が扱う口というのは「健康の入り口」であるため、漢方薬を使ってみたらどうかと考えると、最初は煎じ薬を土瓶で煎じて出していたという。その後、天然成分の軟膏をつくったり、いまでは漢方薬の煎じ薬を15リットルの釜で連続して製造、自動的にパック入りになる装置を導入して、歯科に東洋医学を併用しているという。

研究熱心な草場医師が、株式会社「ウエルネス」の「G7量子水と出会うのは、2021年半ば、代理店の人から「量子水」の入った青い瓶を出されて「あっ、これいいですね」と「直観的に本物だ」と理解したためである。

そのときのいきさつと体験は、2023年1月の「ウエルネス@タイムス」第17号での「いいもの研究所」のレポート「抗ガン剤にも絶大な効果があるヘキサゴン30」（リバース水）でも報告されている。

自身の体験として、オーリングテストでも確認しているが、オシッコの水銀とか銀、鉛などが出ているいう。つまりはデトックス効果がある。

そして、以前から、寝ているとひと晩に5回も脚が攣るので困っていたのがなくなったこと、血圧が下がったことなど、いろいろな水がある中で「最高の水だな」と、患者さんにも薦めている。

彼らから聞くいろんな効果として、痩せた、リウマチが寛解した、抗ガン剤を使って顔が浮腫んでいた人の浮腫みが消えた、抗がん剤の副作用がない髪も抜けない、ガン細胞が消えたと医者から言われたといった体験談が集まったというわけである。

量子水の貴重な理解者

「ウエルネス」の企業としての特徴は、ユーザーというか、ファンが実名で、時に顔写真入りで自らの体験談を語っていることだ。『M.G.7量子水』（三和書籍）には、開発者のホンネ、ありがたいこととして「基本的にクリームがないこと」と記されている。

「ウエルネス」の一連の商品は、活水器、エネルギー水など、様々な言い方をされているが「量子水®」なる呼称は偶然ではない。量子は新しい時代の科学だからである。

量子水ユーザーの中には、多くの社会的な地位のある人物もいて、彼らも実名で登場している。草場医師も、そんな一人というわけである。

先にあげた「幸せ」がテーマのFM放送でも、旧知のパーソナリティから「ずいぶん顔色が良くなっている」と言われて「毎日、量子水（リバース水）を飲んでいるせいじゃないかな」と喜びを語っている。



2024/4/7
北九州市小倉城にて
筆者と草場医師

放送でも、自身の体験として、脚が攣っていたのが全然なくなつたこと。髪の毛が増えたこと。肌がキレイになつたような気がすると言つて「若返つた」と語っている。

その効果は、人間に限らない。生後すぐ草場家に来た2歳半の犬は、量子水だけを飲んで育つた。いまは毎日トリットルの量子水を飲むそうだが、オシッコが臭くない。お風呂で洗っているわけではないのに、毛がピカピカに輝いている。かつて飼っていた同種の犬とはまったくちがうのだからびつくりするという。

そして、今では、代理店から頼まれて新型のシャワーヘッドをいち早く試して（LED＋5・5mGメディカルシャワー）のお風呂に入れば、温まり方が全然ちがう」と、その良さを積極的にPRしてくれている。

もちろん、自分がある良さを確かめて、納得した結果でもあるが、草場医師が「ウエルネス」の貴重な理解者・ファンだからである。

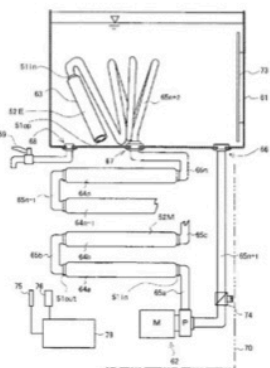
現役の歯科医師が、診療の一環として、西洋でも東洋医学でも治りが今ひとつの患者さんに対して薬でも栄養素でもない「水（量子水）」の飲用を薦めるのだから、近未来の医療を先取りしているとは言えないだろうか？

(57) 【要約】

【課題】 構成が簡単で取り扱いも容易な小型の活性水製造を可能とした水処理装置を提供する。

【解決手段】 サブ改質コアを設置した貯水槽と、複数本のメイン改質コアと循環ポンプ装置を収容した駆動部筐体で校正され、メイン改質コアは、その各上流側である一端に入水口を有し、下流側である他端に出水口を形成した中空柱状ケースで構成され、複数本のメイン改質コアを循環ポンプ装置によって循環される水流の上流側から下流側に順に接続するメイン連絡管と、貯水槽に收容されたサブ連絡管とサブ改質コアと貯水槽を循環ポンプ装置に接続するミドル連絡管とで循環路を形成し、貯水槽内に收容される水を循環路で循環させることにより貯水槽に貯留される水を生物の生存に好適な活性水とする。

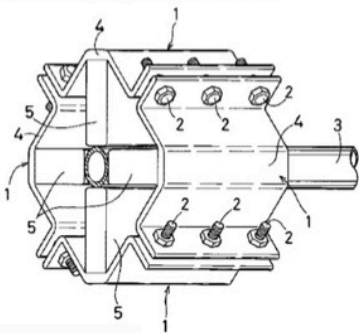
【選択図】 図1



(57) 【要約】

【課題】 どのような管径の配水管であっても適用できる汎用性のある磁気活水器を提供し、しかも簡単に製造できるようにする。

【解決手段】 配水管3の外周面に永久磁石5を複数個配し、配水管内を流れる水を前記永久磁石5から生ずる磁界により活水化するようにした磁気活水器であって、それぞれの永久磁石5の配水管3と反対側の磁極に磁性材からなる支持体4を取り付けると共に、隣接する支持体4間距離を調節可能な連結具2で連結し、輪状に形成した磁気活水器とした。



Rebirth 100L



Hexagon 30スケルトン

νG7の主要な特許をご紹介します

飲用量子水の最上位機種としてみなさまにご愛顧いただいているリバース、ヘキサゴンの根幹をなす特許です。

量子水製造装置としての特許、多回数コア通過によって、生物の活性が高まることを示唆する特許で構成されています。

わたしたちヒトは、ミトコンドリアで活動エネルギーATPを産生していますが、このしくみは、真核生物に共通のもので、タモギタケ(キノコ)を使った試験結果が、ほぼ同等にわたしたちの細胞の中で起きている現象を表しています。

ミトコンドリアのエネルギー産生は、解糖系にはじまり、呼吸でとりこんだ酸素と反応させて、複雑な経路をいくつか経由し、最終的には電子の受け渡しのみによって反応が収束し、最終的には水と二酸化炭素を排出します。

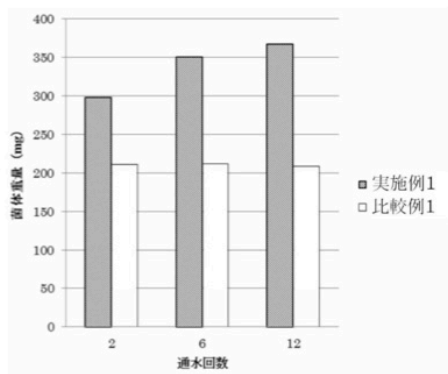
量子水を飲むと元気になる！ これは、生きとし生けるものに共通のしくみに則したもので、「いのち輝く量子水」と称しているのは、たんなるキャッチコピーではありません。水道水のように、酸化した水を天然の岩清水に近い活性した水に戻して、アンチエイジングのはたらきを持ったいのちの水を蛇口から、ウエルネスは、これからも各種エビデンスを追求してまいります。

【要約】

【課題】タモギタケを効率よく生産する新規な方法を提供する。

【解決手段】この方法は、タモギタケ菌糸体を量子水中で培養することを含む。タモギタケ菌糸体を液体培地又は固体培地内で培養される。量子水は、量子水を製造する量子転換器に通した水を再度、量子転換器に通すことを2～12回、繰り返した水であることが好ましい。

【選択図】 図1



スペシャルトーク

その名は、水の微笑み



CMの女王、シンガーとして活動50周年をお迎えになったミネ八八さんと野村社長の対談が実現しました

野村 いやあ、すばらしいコンサートでした。
ミネ それは、ありがとうございます。

先日、見せていただいた動画もとても素敵でしたねえ。アメィジンググレイス♪と四季折々の水の輝きが調和していて、すばらしいです。

野村 それは光栄です。量子水のご愛用者には、ミネ八八さんのファンの方が多くみたいですよ。

ミネ そうなの？ やっぱ「水」つながりでしょうか、ふしぎですねえ。残念ながら旅ばかりで自宅にすることが少ない身ですが、シャワーはともいいですね。マドラーも携帯できて、外出先でも安心してお水が飲めます。

野村 どうもありがとう。
ミネ 以前、お仕事でミネラルウォーターのCMも歌いましたけどね、ほんとうに、お水はこの次の次に大切と感じます。

野村 1日たりとも水なしでは生きられませんが、最近ではそうもいかないようです。

ミネ もともと、30代のころ、アフリカを3ヶ月旅して、雨風しのげる屋根があつて、ほんのわずかな食べものと水があれば生きていける、わたしたちは生かされているんだ、と強く実感したのがスタジオミュージシャンを辞めて歌手ミネ八八になったきっかけだったんです。それから、ネイティブアメリカン・ダコタ族のお名前「ミネ八八(水の微笑み)」をいただいたのもふしぎなご縁でした。最近、水道水のフッ化物混入など、意識して自分たちの身を護らなければ、と心配になるニュースが多くてとても気になりますね。

野村 ほんとうに、ワクチンの副反応をはじめ、うかうかしていると正しい判断ができないといえますか、必要な情報に適正に開示されない怖い世の中になってきています。

ミネ わたしは、いつもコンサートのMCで、チャンス・チョイス・チャレンジとお話していますが、立場や状況にかかわらず最終的には本人が選んで(チョイス)決めたことだとは思いますが、まさかそんなことになっているとは思えもしなかったというのが正直な気持ちなのかも知れません。

野村 かつて、日本でも大きな公害問題など経験しているのに、それが活かされていませんね。

ミネ わたしが歌う曲の歌詞は、地球や宇宙といったスケール感の壮大な歌が多いのです。でも、ひとりひとりが、身の回りの小さなことをきちんと整えることがいちばん大切と思います。知らなかったからではなくて、知ろうとする努力も時には必要です。もちろん、自分のこのころを見つめることも。わたしたちのこのころの総和が、今の地球の姿なのですから、言い訳はできません。みんなが、母なる地球のひとつ一つの細胞のような存在なのです。

野村 ほんとうに、まったく同感です。

量子水は、水道水をはじめ、水を活性化させていのちを蘇らせる、かつての山紫水明といわれた日本の大自らの生きた水に戻したいと願って、ほんの一部ですが再現しています。しかし、水のふしぎさはどこまでいっても解明できそうにないのです。宇宙の摂理は偉大で、わたしたちはそれを享受して使わせてもらっているに過ぎないのだと痛感しています。

ミネ 後先顧みず、やりたい放題にしている、大人が無責任に生きてきて、そのツケを未来ある子どもたちに負わせるのは避けなければいけない。子どもたちが無邪気に笑っていられるのが本来の在り方だと思います。植物も動物たちも生きとし生けるものはみなつながっています。空も山も川も海も。おかしいと思いつながら改めなければ、もう限界ですよ。

野村 この100年、科学万能のように誤解されていて、何かにつけてエビデンスはといわれますが、ハイ、これです、とデータを見せても、次は、その次はとキリがありません。そこで少し難しいですが、量子のはたらきについて説明を試みますが、見えない、理解できないから怪しげという。理解しようとしないうちはあなたでしょう、といいたくなります。頭でっかちで、素朴な、子どものような純粋な感覚を無視してしまう。もとはみんな子どもだったのにです。

ミネ そうですね。わたしたちは、どうしてお日様が東から昇るのかを知りませんし、雨が降る仕組みを説明できるひとも少ないでしょう。そんなことは深くは知らないで、あたりまえの顔して生きていますが、子どものころはどうしてなんだらうって、いちいちふしぎに感じていましたよね。毎日毎日、何くわぬ顔で使っている水だって、自然界の循環で水を浄化して、海から空へ引き上げて雨を降らせて、また、そのくり返し、そんなことがどうして起きているんだらうって思っていました。それなら、せめて、無駄にしないで大切に使用せてもらおうなんてことも大人はあまり考えていない。じゃ、冷静に考えたら、地球にとって不都合な存在はヒトなんじゃないのかって思えてきますね。

野村 ほんとに、情けなくなってきましたね。そんなことをしていたら、安心して水を飲めなくなってしまう未来も近いでしょう。急いで考えと行動を変えなければいけません。

ミネ わたしたちは、認識していかないことはないのと同然、それはおかしい怪しいと、自分が絶対的に正しいと思ひ込んでいます。だから、時代に先駆けて何かを生み出すとは苦勞する。わたしもインド(ビハール州)に学校を2校づくり、様々に支援してきた中で、誤解されたり習慣のちがいに戸惑いながらも止めないでやり続けていたら、今ではすばらしい活動に成長しました。社長さんも並々ならぬ苦勞がおりだったでしょう？

野村 量子は、目に見えないですから、試行錯誤の繰り返しでした。しかし、量子水を使ってくださった方々から、こんなことが起きた、症状が改善した、とたくさん報告をいただくことが励みになりました。理屈も必要ですが、結果が伴わなければ意味がないのです。飲み水だけでなく、事業用の水もそうですが、水を必要としない仕事もないし、わたしたちの生活には、水は1日たりとも欠かすことができません。あまりに身近過ぎて、普段はありがたさを忘れていきます。その水を量子水に換えると気になる問題や症状も改善する可能性がある。論より証拠といいますが、あまり理屈ばかりこねないで素直に使えばいい、そうすれば結果が出ます。結果が出れば、うわあ、うれしいありがたいと感謝するわけです。ひと様が好き姿を見ると、こちらまで良かったなあと思えます。開発者冥利とはこのことかなと思えてきます。

ミネ ほんとに、そうですね。

わたしは、東北震災の後、かなり後の期間まで、各地をまわって体育館や慰問先で歌い続けました。ある、会場でのこと、歌を聴いてくださったおばあちゃんや、あれ以来、泣けたのはじめてとおっしゃって、わたしにしがみついてお立きになったんです。背中をさすってあげることもかきませんでしたが、同じ時を共有して、こころを寄せることがひと様のチカラになることもあるんだ、と貴重な経験になりました。いえ、チカラをいただくのはむしろこちらの方です。だから、小さくてもいい、自分の果たす役割を少しずつでも果たしていけばいいのだと信じて歌っています。社長さんは、生活の中の水を蘇らせること、わたしは、みなさまのこころに響く歌を歌い続けること、役割は、ひとそれぞれですが、どれも貴重で欠かせないものです。

野村 はい、そういつていただけると勇気が出ますね。幸いなことに、最近では、インドの大学が数年にわたる検証で量子水はどうやらほんとうにいいらしい、これから大勢のヒトに使わせてみて本格的に研究する、と連絡をよこしました。そんなこと気づくのに何年もかかるのかといいたくありませんが、ものには順序もありますし、先につながれば良しとしましょう。

ミネ ふふふ、そうですね。続けていければ、いつか結果が出ますし、新しいひととの出会いで道が拓けたりすることもありますよね。忍耐が必要な場面が多いのは事実ですが。

ミネ 社長さんは、わたしより少し年上ですが、健康に気をつけていることがありますか？

野村 そうですね。量子水をなるべく多めに飲むようにこころがけてはいます。体質にもよりますが、毎日、1.5から2リットくらい。飲酒後や運動の前後にも摂ってくださいとおすすめしています。

2年前くらいにアルコールを控えるようにしたら、みるみる痩せました。仕事柄、ひと様には量子水を飲んだら痩せませ、といっておきながら、その効果にびっくりしました。それまでは、量子水がアルコールの代謝に先にまわされていたんでしょう。それで、アルコールが減ったから、いわゆるダイエットにつながりました。

血液検査の数値も太鼓判を押してもらえくらいに改善しました。気になる症状のある方なら、中性脂肪や血糖、血圧の安定にダイレクトにつながることもあるでしょうね。実際、人間ドックの報告書を見せてくださるご愛用者様もいますよ。細胞内液の70%は水ですから量子水に入れ替われば、一对多の効き目といえますか、即効性があるんです。正に論より証拠です。

ミネ ええ、ダイエットですか、それはとても気になります。水を飲むだけで痩せるなんて！

野村 そう、嘘でも何でもないですよ。

ミネ それはいいですねえ。

歌は、からだを楽器のように響かせますから、痩せ過ぎはいけません、脚への負担も考えてもう数キロくらい体重を減らせたらいいかな、と思っているんです。コンサートであちこちまわりますから、ご当地のおいしい献立があり過ぎて、なかなか難しいですが、こころがけなければいけません。お水を換えればいいなら負担も少ないですし、継続しやすいですよ。

野村 そうですね、水はいのちの素ですから。わたしたちが、寝たきりではなく、健康で長生きするためには、良い水と安全な食べものと、歩くことなど基本的な運動が不可欠でしょうね。それから、忘れがちなのが入浴ですよ。

ミネ へえ、お風呂ですか？

野村 はい、皮膚は表面積が大きいですからね。量子水のお風呂は、ふしぎと、いつもより2℃くらい熱くても平気に感じられて、その分効果が高いといわれます。

ミネ シャワーヘッドから湯船に入れるの？

野村 そうです。コア連結式が特におすすです。

ミネ うわあ、楽しみです。さっそく試してみますねえ。

◇ミネハハさん

ホームページ◇

www.minehaha.com

ミネハハHP



minehaha.com

ミネハハ特集動画



YouTube

量子水de健康な会

2021年、3人の量子水愛用者によってはじまったブログ(自発的情報開示と交流)を見つけた株式会社ウエルネスの野村修之社長が、正式な愛用者会と認め、今では、勉強会開催や製品開発の助言を求めるなど協調する場面が増えている。



<https://www.ryoshide.club>
info@ryoshide.club

あっぱれ、量子水
開発物語&事例インタビュー

量子水de健康な会編
インタビュー／早川和宏

協力 株式会社ウエルネス

発行者 量子水de健康な会

